令和8年度からメンバー年会費引き上げ案。10 月理事会で結論。さらなる集客努力を求めて議論 ―6月理事会―

団塊の世代が 75 歳を迎え、ゴルフクラブを支えてきた主要なゴルファー層のリタイヤが加速しゴルフ人口が減る、ゴルフ業界の 2025 年問題が影を落とし、年会費の引き上げが現実のものとなった。6 月 26 日の理事会で、堀越三津夫社長から引き上げ案が公表されて審議し、10 月の理事会で決議することになった。

引き上げ案による新年会費は法人会員が 10,000 円引き上げの 66,000 円(税込)、正会員が 5,000 円引き上げの 33,000(税込)、平日会員が 3,000 円引き上げの 16,500 円(税込)となる。ゴルフ場側はここ数年、2025 年問題対策の一環として電動カートのコース乗り入れを始め、集客促進策を重ねてきたが飛躍的な改善を図れず年会費の引き上げが不可避となってきた。

理事会の審議では、 近隣ゴルフ場の年会費の現況について、情報把握を行い、引き上げの理由について会員を納得させられる説明を尽くせるようにして欲しいとの要請が出された。また、引き上げに賛成するが、競技、オープンコンペの内容を再検討して集客を増やす工夫をして欲しいと要望があった。例えば、参加者の多いクラブ 99 は月初だが参加者減が著しいグリーンレディース会は月末の開催で、開催時期の再考などだ。

女性のコンペについては、昼食のメニュー、賞品も集客に響くため、他ゴルフ場のコンペとも比較して検討することも必要との声も出た。「塩カンの競技は距離が長い」との声があり、集客を目指した距離の短いコンペがあってもいいという意見もあった。また、インバウンドの取り込みの検討もあるとの指摘もあった。

引き上げについては、会員に対しては詳細な説明と丁寧な対応について強い要望が出された。また、引き上げ後に会員へサービス券のようなものの配布もあってもいいという声があり、堀越社長から前向きに検討する旨の返答があった。

最後に引き上げについて諮ったところ、出席者全員の賛成が得られ、10 月の理事会で正式決議をする運びとなった。

年間入場者 45,188 人、前期の約 700 人減。1人当たりの売上 7,854 円。

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までの会計年度の入場者は、12 月以降の降雪、トップシーズンに入ってからの土日祭日の悪天候で入場者は 44,495 人に止まり、前期の 693 人減で目標の 45,600 人に届かなかった。営業収入は 34,945 万円で前期の 907 万 9 千円減だった。これを一人当たりの営業収入単価に直すと、7,854 円で前期より 80 円減だった。

ゴルフ場側はプレーヤーの高齢化によるゴルフ離れや周辺ゴルフ場との価格競争の激化など厳しさはあるが、年間来場者 45,000 人以上、営業黒字を維持できる環境整備が営業課題になるとしている。

【雑草博士のグリーン談義】

前宇都宮大学教授　小笠原 勝

雑草の有用性(5)

雑草というと悪いイメージばかりが浮かんできますが、生態系の維持や国土の保全に無くてはならない良いところも沢山あります。今回は雑草に花を持たせて、雑草の有用性についてお話しします。

先ず、衣食住の「衣」です。弥生人が着ていた貫頭衣はカラムシやアカソなどのイラクサ科の多年草から作られていました。福島県の昭和村にある「からむし会館」には、一着数万円もするカラムシ織のとても涼しげなシャツが売られています。クズも織物に利用されていました。クズで作った布は葛布(かっぷ)と呼ばれ、おしゃれな鎌倉武士は葛布製の直垂を着ていたそうです。今でも静岡県掛川の特産になっています。また、大島紬の黄色はイネ科雑草のコブナグサで染めたものですし、ツユクサ(栽培品種はオオボウシバナ)の青色色素は友禅染の下絵に使われており、滋賀県草津市の市の花にもなっています。

次に「食」です。春の七草に例えられるように、さまざまな野草が食用にされています。畑の強害雑草のスベリヒユ科のスベリヒユは山形県では「ひょう」と呼ばれ、今でも正月の郷土料理に使われています。また、別名エルサレムアーティチョークと呼ばれるキクイモは宮沢賢治の「そもそも拙者ほんものの正教徒ならば」という詩にも出てくるキク科の多年草で健康食品にもなっています。水田の強害雑草のヒエはイネよりも冷害に強いため、明治初期には救荒作物として 10 万 ha 以上も栽培されていました。現在では、岩手県を中心に 5ha(100t)ほど作られています。また、センブリ、ゲンノショウコ、ドクダミなどが薬用として、タンポポがコーヒーとして利用されています。そして「住」です。茅葺き屋根には、ススキ、ヨシ、カリヤス、チガヤなど使われていましたし、土壁には、強度を上げるためにススキが練り込まれていました。

この他にも、ナズナやオオバコを使った子供の遊びなど、雑草の有用性は多岐にわたりますが、最後に馬と雑草の関係からその有用性を考えてみたいと思います。トラクターや耕耘機が広く普及するのは昭和 30 年代後半からで、それまでは耕耘や代かきなどの農作業から木材の運搬まで、馬は八面六臂の大活躍でした。戦前には、全国でおよそ 150 万頭もの馬が農村で飼われていました。馬が食べる 1 日当たりの草の量は生草で 20kg ほどです。今なら、オーチャードグラスやチモシーといった牧草がありますし、年間、1,300 万トン以上の濃厚飼料が海外から輸入されていますから、何とかなるでしょう。しかし、当時は牧草も濃厚飼料も容易に手に入れることはできませんでした。唯一の馬の餌は水田畦畔や入会地に生える草(雑草)でした。以前、那須烏山市で基盤整備前の水田畦畔の雑草植生を調査したことがあります。140 種類ほどの雑草が生えていましたが、毒草は1種類もありませんでした。恐らく、馬の嗜好性や安全性を考えて、農家の皆さんが長い年月をかけて水田畦畔を採草地に変えていったのではないかと思われます。

雑草が光エネルギーを化学エネルギーに変えて炭酸ガスを固定し、その雑草を食べて馬が頑張れるのも、太陽光パネルで発電した電気でモーターが動くのも、元をたどれば一緒でいずれも太陽エネルギーに行きつきます。今は、何の利用価値もない雑草ですが、つい数十年前は農家にとってとても貴重なものでした。わずか数十年に間に、世の中は怖いくらいに様変わりしてしまいました。

最後に一言。スズメノカタビラはグリーンの強害雑草にもかかわらず、海の向こうのアメリカでは「ポアナ」と呼んで、グリーンで使われています。ベントグラスとの共存とか雑草の有効利用といえば聞こえは良いですが、何のことはない防除を諦めただけのことです。芝草の維持管理技術については塩原 CC の方が断然に上です。

【中里鉄也の目・Q&A】

Q ： 練習場ではそれなりに上手く打てているのに、コースに出ると思った通りに打てません。
アドバイスをお願いします。

A ： 練習場でナイスショットができるのに、いざコースに出ると途端にボールが飛ばなくなったり、曲がったりしてしまう方、実は多いようです。理由を考えてみましょう。

心理的な原因

●プレッシャーと緊張

コースではスコアを意識したり、同伴者の目があったりすることで、練習場では感じないプレッシャーがかかります。この緊張が体の動きを硬くし、練習通りのスイングができなくなる一番の原因だと思います。

●集中力の散漫

練習場では打つことだけに集中できますが、コースでは OB ゾーン、ハザード、グリーンのアンジュレーションなど、さまざまな情報が目に入ってきます。これらの情報が集中力を妨げ、スイングに悪影響を与えることがあります。

物理的な原因

●ライが不均一・マットと芝の違い

練習場は常に平坦で均一なマットの上から打てますが、コースでは平らな場所ばかりではありません。つま先上がり下がり、左足上がり下がり、ラフ、バンカーなど、さまざまなライ(ボールがある状況)から打つ必要があります。これがスイングの再現性を難しくします。

また、練習場のマットは滑りやすく、多少ダフっても滑ってくれてナイスショットになることがあります。しかし、コースの芝はマットとは違い、少しでもダフればターフを取ってしまい、飛距離が出なかったり、方向がブレたりします。

●目標の意識と方向感覚

練習場ではネットに向かって打つため、目標を意識するというよりは「まっすぐ飛ばす」ことに集中しがちです。

しかしコースでは、フェアウェイやグリーンなど具体的な目標に対して、地形や風の影響も考慮しながら方向を定めなければなりません。この方向感覚のズレもミスショットにつながります。

また、練習場ではボールの行方はネットで止まってしまうため、最後までボールを追う意識が薄れがちです。コースではボールがどこまで飛んだか、どこに落ちたかを確認する必要があるため、無意識のうちにヘッドアップ(打つ前に顔を上げてボールの行方を見てしまうこと)してしまうことがあります。

対策

●練習から本番を意識する

練習場でも、ただ漠然と打つだけでなく、マットの端に仮想の OB ラインを設定したり、仮想のハザードを想定したりして、より実践的な状況を意識して練習するのも効果的です。

●ラウンド数を増やす

やはり一番の薬はコースでの経験値を増やすことです。様々なライや状況を経験することで、徐々に慣れ、対応力が身についていきます。

最後に、ゴルフはメンタルスポーツと言われるように、技術だけでなく心理的な要素が大きく影響します。練習場での感覚をコースでも再現できるよう、意識して取り組んでみてください。

関東女子グランドシニアゴルフ選手権

2025年度の関東女子グランドシニアゴルフ選手権の決勝が6月11日・12日に、長野県の長野カントリークラブ　飯綱・戸隠コースで開催された。

当クラブメンバーの加藤仁美選手が出場し、第2位と大健闘されました。

関東女子グランドシニアゴルフ選手権　決勝競技

角田里子（鹿沼）が優勝！

参加資格女性アマチュアゴルファー60歳以上の関東女子グランドシニアゴルフ選手権決勝競技が6月1日、12日の2日間、長野県の長野カントリークラブ飯綱・戸隠コースにて開催された。

昨年の関東女子グランドシニアと日本女子グランドシニアでいずれも2位となった角田里子（鹿沼）が雨の初日に73で首位に立つと、2日目も72で首位を守り、2位に6打差をつけて本大会3勝目を飾った。堂々たる優勝だった。

2位タイに加藤仁美（塩原）、南雲真理（大利根）、4位に黒木蘭（東千葉）、5位に本郷すみ江（藤岡）が入った。

編集後記

参議院選挙でSNSにあふれたフェイク情報が問題になった。例えば「生活保護の受給者は外国人の方が多い」という言説だ。これは実はフェイク（ニセ）情報だ。質（真偽）よりインパクト（衝撃）なのだ。新聞・テレビのオールドメディア時代は「犬が人を噛んでもニュースじゃないが、人が犬を噛めば大ニュース」といわれた。それに慣らされ、真偽よりインパクトという遺伝子がしみついてしまったのか。誰でも発信出来るSNSだけにファクトチェクに臆病になってもなり過ぎはない。

井上安正